

「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和3年2月5日(金) NO24 文責 木下 文秋

県立高校推薦入試

今週の木曜日は、県立高校の推薦入学者選抜試験がありました。正式には、推薦入学者選抜検査といいます。試験ではなく検査なんですね。ちなみに県立は「受検」私立は「受験」という漢字を書きます。受検は検査・検定を受けることを意味し、受験は試験を受けることを意味します。では、推薦入試とは一体何なのでしょう。一、二年生にもよく理解してほしいと思います。まず、高校側が自分の学校の推薦要件を示します。これは、自分の学校に来て欲しい生徒像のようなものです。例えば「農業経営や農業関連産業に従事することを志す者」「大学への進学意欲が強く中学校の学習内容をよく理解している者」「ものづくりに興味を持ち機械に関する資格取得にも積極的に取り組む者」等です。その要件に合致した生徒が受検できるのですが、もちろんその学校に見合うだけの学力が必要です。さらに重要なのはその高校に行きたいという強い意志があったかどうかです。どの高校にも「本校への進学を強く希望し…」という趣旨の一文があります。3年生になるとテストのたびに志望校を書くので、毎回志望校が変われば推薦要件には合致しないということにもなります。もちろん多少の変動はあると思いますが、また、推薦は宝くじではありません。当たるか当たらないかイチかバチか手を上げてみようではダメだということです。私の知る生徒で、推薦で失敗して自信をなくし、実力はあるのに一般でも合格できなかった例があります。受けられればラッキーとは限りません。また、3年生になって三者面談の頃になると色々なこともあります。生徒と保護者の考えが合わないこともあるし、自分がどの高校に行きたいのか分からなくなる生徒もいます。そうすると「今の成績で合格するところならどこでも」となってしまいます。将来どんな仕事に就きたいかを今決めることは難しいかもしれませんが、自分がどんな職種に向いているのかは、自分で整理することができるはずです。動物が好き、物づくりが好き、介護や福祉に興味があるなど、その適正を見極めることができれば、自ずと進路は明確になるはずです。生徒の皆さん、進路の選択はできるだけ早いうちにできるといいでしょう。最後に、推薦に限らず受検では、欠席日数や日頃の授業態度、基本的な生活習慣が大きくものをいうことは言うまでもありません。